

幼小連携・接続 オンデマンド研修動画

I なぜ幼小連携・接続が必要か

II ①幼児教育の役割と特長

②幼児教育で育つ力【演習】

III ①接続期の子どもたち

②スタートカリキュラム作成のポイント

IV 特別支援教育と幼小連携・接続

V 雲南市立斐伊小学校区の取組

！なぜ幼小連携・接続が必要か

聞こえてくる声

< 幼児教育施設側 >

- 必要だと思っているけれど、何となく敷居が高くて声をかけにくい。
- 小学校の先生方はいつも忙しそうで・・・
- だれに話をすればいいのかわからない。 等々

< 小学校側 >

- 大切なのはわかっているが、時間をつくるのが難しい。
- 多数の園から入学してくるので、日程調整だけで大変。
実質的に無理。
- 入学してからがスタート。安心して小学校に任せてもらえばよい。
等々

これらの背景にあるのは

幼小連携・接続 ≡ 気になる子の情報共有

ヒトの配置に関わること

年に1～2回交流活動しているから充分！

適応指導に関わること

という誤解

要領・指針

幼稚園教育要領



保育所保育指針



幼保連携型
認定こども園教育・
保育要領



施設種

幼稚園
幼稚園型認定こども園

保育所 保育園
保育所型認定こども園

幼保連携型認定こども園

幼稚園教育要領改訂の基本方針

②小学校との円滑な接続

4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

第1章 総則

第2節 「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」等

1－(5) 小学校との接続に当たっての留意事項

(参考)小学校学習指導要領

第1章 総則

第2の4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

※下線は講師

(参考) 小学校学習指導要領

第2章 各教科

第5節 生活

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(4)他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

※国語、算数、音楽、図画工作、体育、特別活動においても、上記と同様の記載がされている。

※下線部: 主な改訂箇所

小1フロフシムの解消

すべての

+

狭い意味で
特別支援教育に
FOCUS

子どもたちが安心して
小学校教育を送るため

+

小学校以降の学びを
豊かにするため

「小学校以降の学びを豊かにする」とは

令和4年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省) 島根県(公立)の結果概要より

＜今後の対応＞

○授業の質の充実

- ・児童生徒が意欲的に取り組むことができる課題の設定や生活に関わりのある事象の教材化など、主体的・対話的で深い学びの視点を持った授業づくり

○家庭学習の充実

- ・子どもたちの自主的な学びを支援する授業の在り方の研究や家庭との連携

幼児教育の基本的な視点

幼児の遊びや生活といった**直接的・具体的**な体験を通して
人と関わる力や思考力，感性や表現する力などを育み
人間として，社会と関わる人として生きていくための**基礎**
を培う



環境を通して行う教育



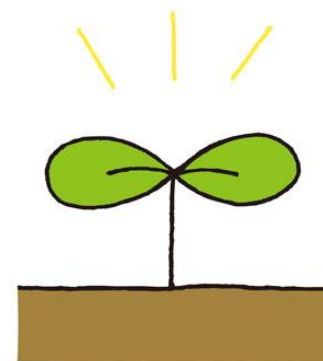
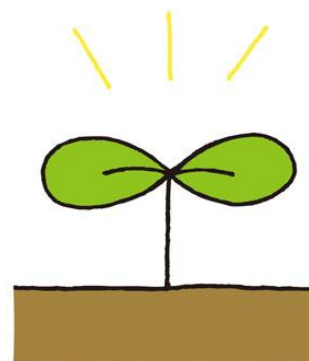
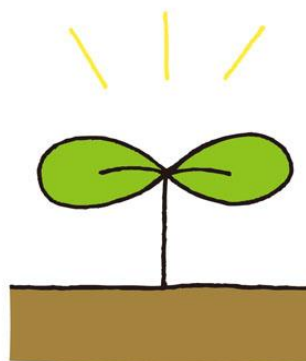
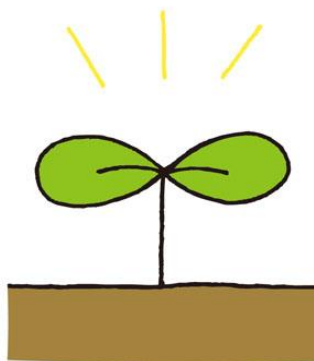
ワクワクする気持ち

楽しい

おもしろい

やってみよう

がんばるぞ



安心できる空間である

やるべきことを理解している

**幼児教育と
小学校教育は**

環境、教育目的、
教育方法、
評価のあり方などが
大きく違う

しかし

**子どもの育ちは
連続している**

特に、8歳頃（小2
頃）までは発達の
特性から園児と同じ
「幼児期」にあたる

子どもの立場に立って、
その連続性や一貫性を保つことが必要！



幼兒教育

小学校教育

キーワード

「ワクワクスイッチ」を
切らないこと